

第26回 BCP 維持管理研究会議事録

1. 開催日時： 2012年12月14日(金) 14:00-17:30
2. 場所： BCAO 神田オフィス
3. 参加者： 深谷純子(書記)/ 中谷明男/ 田中弘明/ 織田始/ 亀原栄二/ 國貞至/ 窪谷貴正/
西條聖史/ 澤田信人/ 篠原光男/ 竹中雅英/ 佐藤栄治/ 高橋哲朗/ 松下浩基/
高桑歩美 (敬称略 15名)

4. 災害対策本部立ち上げ訓練の実施

(1) 訓練の想定 (配布資料参照)

架空の会社を想定 (製造業、江東区で事業、BCPは作成済みだが防災レベル)
地震が発生、発災時に社長は不在
実時間で被災した想定で、電灯と暖房を止めて実施、途中から卓上ランタンを使用。

(2) チーム

3チームに分かれて実施
ファシリテータ：中谷
アドバイザー：深谷 (社長役を兼務)

(3) 訓練を経験しての感想

Aチーム： 織田、亀原、國貞、西條、澤田

- ・情報整理が重要であり、リソース管理用 (入・出) のツールが必要と感じた。
- ・事前にさまざまなドキュメント (近隣地図・病院・避難所など) を準備する必要がある。
- ・情報収集や伝達が、リアルタイムに出来る体制が必要である。
- ・救命救護の教育 (医療機関に頼らない) が必要である。
- ・少人数での意見をまとめるのが大変だった

Bチーム： 窪谷、佐藤、高桑、田中

- ・社内でも同様の訓練をやってみたい
- ・帰宅させないで社内に留める責任は誰にあるのか再考したい。
- ・情報の整理をリソース別に分類されており良かった。
- ・緊急対応の優先順位付け (トリアージ) が重要であることを再認識した。
- ・各種記入用フォーマットの事前準備と記録係りが必須である。
- ・自社から微妙な距離にいる負傷の扱いに悩んだ
- ・迷わないために、判断をするルールが必要
- ・ホワイトボードは、共有する情報を記載すべき

Cチーム： 高橋、竹中、松下、篠原

- ・対策本部組織の役割分担の明確化が重要である。
- ・情報の整理など、各チームの目的を明確にする必要がある。
- ・グループ内で知恵を出し合うことが出来て良かった。
- ・異なる会社の人たちの中で、さまざまな意見交換が出来て良かった。
- ・生命に関する判断の難しさを感じた (病院顧客への対応、負傷者、社員の家族の負傷)
- ・地域の人が避難してきた時、名簿に記入するアイデアが良かった
- ・初動ではBCPに目を向ける余裕がなかった
- ・津波の危険や距離感を把握するために地図が必要。実感がわく。

ファシリテータ：中谷、深谷

- ・緊急時の行動手順書が無いなかで初動対応の演習を行ったため、インシデントに対する行動は、臨機応変に良く出来ていた
- ・即席の組織体制のためか、情報収集・整理、及び分析が不十分であると思われる

- ・対策本部としては、戦略的な対応を検討しやすく出来るよう情報分析や本部員で共有することを意識した記載が必要である。
- ・白板への記載は、質問しなくてもインシデントに対する進捗状況が分かるように工夫すると良い。
- ・被災対応時の記録は大変重要なことであり、必ず記録係の専任者を配置して、5W1Hを意識して記録することが望まれる
- ・本部と現場の違いは、本部は一步先を見て指示がだせること。
- ・対策本部としては、負傷者数や在籍者数など詳細な情報に合わせて、全体感が分かる数字も必要

5. その他

(1) 維持管理研究会のYahooグループについて

- ・過去の議事録、資料を共有
- ・登録できていない方は深谷まで

(2) 来年の研究会開催予定日

- ・2013年1月25日(金) 17:00 - 19:00
- ・2013年2月27日(水) 17:00 - 19:00

テーマ(仮): 訓練の評価手順と評価項目、BCM用語の整理

以上